

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する社会の変化に他者と協働しながら、自らの個性・課題を発見し解決する能力を磨き続けることができる、新しい時代を切り開く人材を育成する学校

- 1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
- 2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
- 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 中期的目標

- 1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む
 - (1) 確かな学力の育成と授業改善
 - ア 1人1台端末、ICTの活用により、個別最適な学びの実現を図る
 - イ 教員間の授業研究による授業改善の推進
 - ウ 論理的な思考を深める機会や意見を述べる機会を設定し、学力の充実を図る
 - エ 一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の充実
 - ※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけている」の肯定的評価を令和7年度には79%を維持する (R2:72% R3:72% R4:79%)
 - ※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和7年度には85%以上を維持する (R2:78% R3:81% R4:87%)
 - (2) 希望する進路の実現を図る
 - ア 「総合的な探究の時間」においてSDGsの課題解決に向けた探究活動を行う
 - イ 生徒の多様な進路選択に応えるキャリアガイダンス(進路指導)の充実
 - ウ 進路に関する情報提供の充実
 - エ 資格取得や各種コンクールへの応募などの推進
 - オ 家庭学習の充実(勉学と部活動の両立)
 - カ 英語4技能(特に聞く力、話す力)の充実を図る
 - ※ 国公立大学、有名私立大学(関関同立)の現役進学率を令和7年度に35%以上にする (R2:29% R3:37% R4:28%)
 - ※ 学校教育自己診断「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価を令和7年度85%以上を維持する (R2:85% R3:88% R4:86%)
 - ※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和7年には70%以上にする(R2:69% R3:68% R4:67%)
- 2 豊かな人間性の育成
 - (1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む
 - ア 情報リテラシーを高め、SNS等によるいじめやハラスメントを防止する
 - (2) 全ての教育活動においてSDGsを意識し、グローバル社会に対応できる人材の育成を図る
 - (3) 部活動や学校行事の充実を図り、より一層、達成感や充実感を高める
 - ※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和7年度には85%を維持する (R2:88% R3:85% R4:87%)
 - ※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和7年度に肯定的評価90%を維持する (R2:93% R3:89% R4:92%)
 - ※ 部活動加入率90%の維持(R2:90% R3:91% R4:91%) 学校行事への満足度を令和7年度に90%以上を維持する (R2:94% R3:97% R4:96%)
- 3 地域から信頼される学校づくり
 - (1) 学習活動や部活動など、地域との連携活動を推進する
 - (2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動をこまめに発信する
 - (3) 業務の精選と学校組織(教員体制、運営方法等)の再構築により、働き方改革を推進する
 - (4) 安全・安心な学校生活を送れるよう危機管理を行う
 - ア 食物アレルギー事故防止のために組織的に対応する
 - イ 熱中症及び感染症等の予防に努め、誰もが適切な対応ができるようにする
 - ※ 学校教育自己診断の保護者の情報発信についての満足度の肯定的評価を令和7年度に90%にする (R2:89% R3:90% R4:86%)
 - ※ 学校教育自己診断の「先生たちはお互いによく協力し合っている」の肯定的評価を令和7年度に90%を維持する (R2:86% R3:87% R4:90%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】 コロナ禍で途絶えていた国際交流関係について今年度再開できた。8月には夏期研修を実施し、冬期の台湾交流については姉妹校の永春高校の来日が次年度となりWebでの交流を実施したことで、生徒の評価は昨年度より33ポイント上昇し、なんとか期待に応える形となった。 昨年度より肯定率が向上した設問の割合は、生徒37.2%、保護者39.3%、教員31.7%と昨年度の上昇率からすれば高いとは言えないが、全般的に数値の変化はほとんどみられず昨年度同様の評価となっており、全項目の(肯定回答)平均においても生徒83.4%、保護者71.2%、教員85.9%と昨年度に比べ保護者・教員で1~2ポイント低下しているものの、ほぼ高い評価となっている。一方保護者では17項目、教員では22項目において下がり、特に進路指導や生徒指導に関しての評価が低下していることから、情報共有が十分でないことがうかがえる。しかしながら、「北千里高校に子どもが入学して良かったと思う」89%「保護者として保護者懇談などで先生方に率直に意見を伝えることができています」83%と、いずれも保護者の高い評価を得ており、今後も家庭と連携を取りながら、さらなる取り組みを進める。</p> <p>【学習指導等】 「学校に行くのが楽しい」89%「行事(修学旅行・体育祭・文化祭ほか)に</p>	<p>【第1回】 令和5年7月12日(水) 15:30~17:00</p> <p>▷本年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に対してPTAとして何ができるか、協力できることは何か、という議論をしていきたい。経営計画案の情報提供を早めにいただければ。 ・お忙しいのは理解するが、80時間超の先生をなくすことを目標にしてほしい。 <p>▷学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北千里生を育成するにあたって 将来構想検討委員会からの発信。北千里高校として、どのような生徒を育てていくのか、教員一同このようなことをめざして取り組んでいる、という方針を、入学式の際に、生徒と保護者に示していくべきだという考えに基づき、教員研修を実施して、北千里生の強みや伸ばしたい力を話し合い、それをもとに文章化。入学式の生徒退場後の保護者へのお話の際に、学年主任から説明するといったこと、また、将来構想検討委員会では、先生方の様々な工夫や取組の事例を集めて、誰でも見られるようにするという取組もしている(通称レシピ集)ことは、素晴らしい取組み。 <p>▷昨春の進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生き方、進学の仕方も大切にサポートをお願いしたい。 大学入試は早くから準備が必要。ただ、自分が何になるかは大学生でも決まらない。 生涯学習も視野に(大人になってからも学べる)指導をお願いしたい。 <p>▷その他</p>

は楽しく参加している」97.5%「授業はわかりやすい」80%といずれも高評価を得ており、「生徒1人1台端末を効果的に活用している」87%「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」88%「先生は教え方に様々な工夫をしている」85%と高く、ICT機器の充実や授業改善が進んでいる。また、新学習指導要領の実施から学校全体で授業改革に取り組み、教員が研修や相互の授業見学及び研究授業などを通じて、課題の共有化に努めている。また、「家庭での学習」については保護者・生徒・教員ともに評価が77・70・79%と伸びてはいるものの、保護者の家庭学習量については36%と低く、単なる宿題とは異なる家庭学習の在り方を改善すると共に学力向上の取り組みを進めていく必要がある。

【進路指導】

昨年同様、「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」89%と高評価である反面、保護者では「進路についての情報を様々な資料で知らせてくれる」62%と、進路に関する項目で若干ではありますが昨年度のポイントより低くなっている。「探究の授業や出前授業などを通じて様々な講師の話の聞いて進路を考えるきっかけとなった」が82%と高評価を得ており、『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。進路指導において情報提供だけでなく、生徒自身が様々なことを自分事として捉え進路実現に向かう力の醸成が、予測不能なこれからの時代に向けて益々必要と考える。

【生徒指導等】

生徒の「主体性」を育む方針から、時間はかかり困難なことが多いが、生徒自治を大切にきた指導を行ってきた。「体育祭や文化祭等の学校行事は生徒自治により行われている」95%と高く、「家庭や学校での基本的な生活習慣について自分なりにできている」80%、「校舎内の清掃は自分たちできれいにできる」80%と、少しずつではあるが、自主自律の意識が向上している。反面、「生徒指導の方針」については保護者・生徒・教員ともに67・79・73と低下しており、「生徒指導の方針」については今一度周知する必要がある。何事も管理する体制から自身が「自分事」として捉え、「考え」「行動」でき、「他人への配慮」ができる力をつけていって欲しい。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が90%、「人権の大切さについて学ぶ機会がある」96%。保護者の方も「学校の雰囲気が良く生徒たちが生き生きとしている」88%と昨年度を上回り、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めていることが窺える。

【地域連携】

例年実施してきた地域交流を今年度も実施。新たに授業において地域の幼稚園や吹田市が企画する高齢者との交流、また、「北千里駅界隈の再開発」について地域の研究会との意見交流会を行うなど、生徒が「主体」となった事業を展開できた。今後、全体への発表など実施予定。「地域と連携した特色ある取り組みがある」66%と昨年度より9ポイント向上しており、コロナ禍で十分実施してこれなかった地域連携を次年度に向けて再構築していきたい。

・大学の入学時点で、タブレット等をすでに使いこなしている学生がいる一方、慣れていない学生もいるなど、スキルに差も出て来ている。是非ICT化は積極的に進めてほしい。

・ICTを使うことで、例えば、配慮の必要な（コミュニケーション苦手）生徒が授業に参加しやすい環境になっていることもあると思われる。

▷授業について

・小学校でもタブレット端末が1人1台配布されて1年生から使っている。授業でも使っているが有効な使い方を広げていくのがなかなか難しい。高校では多くの場面で活用できている。先生方が大変。

・意見を述べるといった授業は高校ではどのように行っているか？

→ペアワークやグループワークを日々の授業で取り入れる教員が多くなっている。

▷長時間労働

・何か具体的な対策や出来たらいいなと思う対策があるか？

→部活動が大きな原因とは考えられる。学校全体で考えていかなければならない。

・部活動の外部顧問の配置を継続してぜひ活用すべき。

▷教科書

・教科書はうすくなっているか？生徒のカバンが毎日重いのが心配。負担軽減の方策があれば検討できないか。

→紙ベースが基本、QRコードを読み込めば実験の様子が見られるなどの工夫がされているが、教科書の内容が見られるわけでない。

・ロッカーに置くことは禁止していないので、家庭学習に必要なものを精選して。

タブレットが軽減に寄与することになっていくかもしれないが。

【第2回】令和5年11月27日（月）14:00～15:00

▷タブレット端末の活用

先生方の負担軽減になっているのか。ICT活用のメリットデメリットはあると思うが、ICT活用により生徒、教員の負担が軽減されていけばと思う。

また、授業見学したが、生徒が自分で課題を見つけて（保健の授業での発表）調べて発表しているものがあつた。大人が思うよりもバラエティーに富んだ着眼点が出て来ていて、高校生らしい発表だった。素晴らしい取り組みと感じた。

生徒への働きかけも教員の働き方改革の取り組みも、主語は「生徒が」「先生が」である。生徒が、先生がどうするのか、そこを大切に取り組みされてきた成果が少しずつ出て来ていると感じ、委員の一員としてうれしく思う。

▷薬物乱用防止教育について

高校ではどうされているか？大学でも（日大の件などを受けて）必要論がある。

→薬剤師の先生をお招きして毎年薬物乱用防止教室を行っている。

▷生成AIについて

大学でも生成AIとの付き合い方が議論になっているが、高校はどうか？

→学校全体として生徒への使用禁止などはしていない。教員の業務上での使用については、承認手続きをとった上で行うように通知は来ている。

【第3回】令和6年2月26日（月）14:00～15:00（予定）

▷次年度学校経営計画について

▷1（1）希望する進路の実現“英検資格取得目標”について

・英検取得者の人数を目標とすることは新たな試みとして良いと思うが、現場の先生方は実際どのように考えているのか気になる。

・コミュニケーション力やプレゼンテーション力、英語力は社会に出たら必ず必要となる。これらの力を養うことは、結果として進路実現にも有利であり、社会で必ず役に立つ。だからこそ、英語資格をはじめとするグローバルな力の育成を北千里の強みにして良いのではないかと。

・探究発表会を一部英語で実施するなどといった取り組みも行ってみたいだろうか。

・授業の中で、英語に興味関心を持てるようなきっかけを取り入れてほしい。ニュースや音楽を英語で学ぶことができるような、興味関心を促しながら確かな英語力を育むことを期待する。

・大学に入れてよかった、ということが終わりではないということ。大学を出た後にどんな力が必要とされるのか、それをもっと意識させることで、受験のための勉強ではなく、語学やコミュニケーション力など幅広い力をつける学びが大切。

・プレゼンテーションの力はとても大事。探究を繰り返していってもらうのも重要。

▷地域連携に関して

・市民はディオス北千里での高校生の活躍を楽しみに待っている。“地域の学校が発表できる場を沢山作ってほしい”といった地域の声が多くある。学校と地域の人的交流をより盛んにするためにも、地域連携において先生方の協力をお願いしたい。

・学校経営計画に英語力に関する目標があるように、地域の人と連携しながら英語を使う場面を作るのはどうだろうか。

・探究活動では、遠足や修学旅行を中心に、地域社会などの外部とのつながりを今後とも継続してほしい。

○学校経営計画について、承認された。（欠席委員は書面にて確認済）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p>1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む</p>	<p>(1) 確かな学力の育成と授業改善</p> <p>(2) 希望する進路の実現</p>	<p>ア 1人1台端末、ICT活用等により個別最適な学びの実現を図る。そのための校内研修を実施し、教員同士がICTによって繋がる。</p> <p>イ 学力向上の組織を構築し、授業改善に努める。相互の授業見学の機会を設定し、課題を共有化する。</p> <p>ウ 思考力、判断力、表現力や学びに向かう姿勢が培われような課題設定を行うために、教科会の充実を図る</p> <p>エ 経済的理由等で修学困難な生徒に対し、様々な面でサポートする。</p> <p>様々な教育活動の中で</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 外部評価を得る機会の設定 ② 資格取得の推進 ③ 探究活動の充実を図り、進路選択のモチベーションを高める。 ④ 自学自習の推進（様々なアプリや教員の配信する課題を効率的に活用し、基礎学力の定着を図る） ⑤ 大学や企業等の外部機関との連携に積極的に努める。 ⑥ 必要な情報を生徒自身が収集し自他の責任と義務について理解する指導に努める。 	<p>(1)</p> <p>ア) 学校教育自己診断（生徒）「タブレットが活用されている」85%維持[85%] （教員）「ICTを活用した授業を行っている」96%維持[96%]</p> <p>イ) 授業見学週間の設定2回[2回]</p> <p>ウ)（教員）「指導内容について教科内で話し合う機会がある」100%[100%] （生徒）「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」90%[87%] （生徒）「論理的に考える力が身についた」80%[79%]</p> <p>エ) 修学・進学に関する必要な学資についての手続きをサポートし、必要であれば、SC及びSSWとの連携も図っていく。</p> <p>(2) 教育活動の中で外部評価や外部のコンクール、作品応募、地域連携などを推進する。(2回) （生徒）「探究活動によりSDGsについての課題意識が高まった」80%[79%] （生徒）「家庭での学習時間を確保する」70%[67%] 「進路や生き方について考える機会」91%維持[91%]</p>	<p>(1) ア) 外部を活用した研修には至らなかったが、校内で相互に工夫を共有化するなどの自主研修を実施した。 （生徒）「タブレットが活用されている」89% (◎) （教員）「ICTを活用した授業を行っている」95% (△) イ) 授業見学週間を6月、11月の2回実施。回数は計画通りの実施であったが、参加教員数は昨年度を上回っていた (◎) ウ) 各教科、学年指導において問いを立て答えを導く工夫を行ったが、教科内での共有に時間が十分に割くことが出来なかった。目標値には届かなかったが、ほぼ達成できている。 （教員）「指導内容について教科内で話し合う機会がある」91% (△) （生徒）「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」88% (△) （生徒）「論理的に考える力が身についた」78% (△) エ) SC及びSSWとの連携を図りながら支援と進路の連携を行い、自己実現、進路実現に繋げている。(○)</p> <p>(2) 特に探究活動として、地域の課題に取り組み、地域と連携した発表を実施した。学校の取り組みと高校生の頑張りを評価していただき、貴重な経験を積むことができた。(○) （生徒）「探究活動によりSDGsについての課題意識が高まった」78% (△) 配信された課題に対して取り組む姿勢は確立されているが、在り方については今後検討が必要。 （生徒）「家庭での学習時間を確保する」70% (○) 「進路や生き方について考える機会」90% (△)</p>
<p>2 豊かな人間性の育成</p>	<p>(1) 人権教育の充実</p> <p>(2) グローバル社会に対応できる人材の育成</p> <p>(3) 部活動、学校行事の充実</p>	<p>・ワークショップ型や当事者による問いかけなど、自分事として捉える人権教育の充実を図る。</p> <p>・SDGsを意識した教育活動を展開する中で、生徒が国際社会の一員として主体的に行動するための態度・能力の基礎を育成するよう、学校全体で取り組む。</p> <p>・国際交流の推進を図る。</p> <p>・部活動による人間関係力の育成や生徒自治を充実させ、生徒が主体となって学校行事の運営ができるよう生徒たちを支え、思考力、判断力、実行力など生きる上で必要な力を育む</p>	<p>(1) ワorkshop形式の研修や当事者との交流など、体験し肌で感じる人権教育の実践 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」92%維持[92%]</p> <p>(2) 「SDGsの課題意識が深まった」80% [79%] 「国際理解を深めることができる取り組みがある」60% [48%]</p> <p>(3) 部活動加入率を91%維持[91%] 生徒が主体となる行事の運営 「学校行事が楽しい」95%以上の維持[96%]</p>	<p>(1) 1、2年生の人権HRで各担任によるワークショップを実施。拉致問題を切り口とした在日コリアンに対する差別、アパルトヘイトを切り口とした人種差別など当事者との交流を実施。スマホ安全教室など他者理解、国際感覚を感じる事ができた。研修実施回数：生徒8回、教職員2回 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」96% (◎)</p> <p>(2) 特に1、2年生において3学期に探究活動発表を実施しており、17項目を2学年で取り組んだ。内容の精選が課題。 「SDGsの課題意識が深まった」78% (△) オーストラリアへの語学研修を8月に実施し、26名が参加。 「国際理解を深めることができる取り組みがある」81%(◎)</p> <p>(3) コロナの影響を受けている新入生の部活動離れが気になる。本年度の加入率96% (◎) 生徒が主体となる行事の運営を修学旅行や生徒会行事など様々な場面に創設した。 「学校行事が楽しい」98% (◎)</p>
<p>3 地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 地域との連携活動の推進</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>(3) 働き方改革の推進</p> <p>(4) 危機管理</p>	<p>地域の行事に積極的に参加し、日頃の教育活動を発表したり、地域の方々から評価を受け、共に育ちあう機会を作る。</p> <p>学校見学会やHPを通じて、学校の特色を発信する。</p> <p>業務の精選と学校組織の再構築を推進する。毎月、時間外勤務の多い職員に月の途中で声掛けを行い、働き方改革を推進する。</p> <p>情報の共有が適切に図られることを意識して、危機管理に取り組む。</p>	<p>(1) 地域参加の機会を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市のイベント (1回) ・学校間交流 (2回) ・ボランティア活動の推奨 (夏季休業中など) <p>(2) 学校見学会 (3回) Webを活用した広報活動の実施</p> <p>(3) 時間外労働時間が80時間超となる職員の延べ数20名以下[19名]</p> <p>(4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会などの危機管理に関する委員会を定期的に開催する</p>	<p>(1) 以下の活動に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市のイベント (チャレンジデー、ペットボトルロケット大会) ・地域商業施設のイベント (ディオス北千里) ・箕面支援学校、池田高校生徒会との交流 ・クリーン作戦 (吹田市のアドプトロード (府道)) ・吹田市社会福祉協議会主催の高齢者スマホ教室 (ほか地域からは大きな期待が寄せられている。(◎)) <p>(2) 学校見学会は予定通り3回実施 (○)</p> <p>(3) 時間外労働時間が80時間超となる職員の延べ数13名(◎)</p> <p>(4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会はそれぞれ年4回、支援委員会は月ごとに開催し、機会あるごとに情報共有やサービス・コンプライアンス・ハラスメント等の綱紀保持について共通理解を図っており、教員の学校教育自己診断結果「危機管理体制が整備されている89%」に反映されている。(◎)</p>